

## 〈 研究主題 〉

互いに認め合い、運動の楽しさとできる喜びを実感できる体育」  
～かかわり合い、高め合う大野っ子をめざして～

### 主題設定の理由

本校は、平成26年度末、27・28・29年度の3年間、「海南市体力向上研究指定校事業」の委託を受け、さらに、29年度開催の全国学校体育研究会和歌山大会の公開授業校・分科会場校に決定した。それまで研究してきた「コミュニケーション能力の育成」の蓄積を大切にしながら、「かかわり合い」をキーワードとし、人間力を基盤に、学力・体力の向上を目指し取り組みを進めている。

研究を進めるにあたって、本校の体力・運動面の実態を見てみると、研究を始めた当初、27年度新体力テストの結果（資料参照）はほとんどの項目で国・県の平均を下回っており、子ども達の運動能力に大きな課題のあることがわかった。独自に行った運動・生活アンケートからも「運動をあまりしない」と答えた児童が5分の1、このほか、「体を動かすことがあまり好きでない」という児童もいる。普段の生活においても外で遊ばない児童もいて、運動の好き嫌い、また、体力面での個人差が大きいなど、体育の今日的課題となっている「運動の機会が減っていること」や「体力の二極化傾向」が、本校にもあてはまる結果となった。そんな実態を考えた時、主体的に体を動かす児童を育てるには、まず、「運動が楽しい」という気持ちを持たせることが重要となる。さらに、自信を持って体育学習に取り組むには、「できた」「上手になった」と実感することで「体育が好き」という気持ちを持たせることも大切である。友達同士認め合い、より良くかかわり合うことで、安心して楽しく学習に取り組むことができる。また、互いにかかわり合い、教え合うことで、わずかであっても技能の高まりを喜び合うことは、学習の質や意欲を高め、知識の獲得、技能の習得につながるだろうと考え、この主題を設定した。

そして、体育の中でも子ども達がより豊かにかかわり合えることを期待し「体づくり運動」と「ゲーム及びボール運動」の領域を中心に研究を進めることにした。「体づくり運動」は、体を動かす楽しさや心地よさを仲間と味わうとともに、楽しく運動しながら体の基本的な動きを総合的に身につけていく運動である。「ゲーム及びボール運動」は、チームで協力して練習したり、ルールや作戦を工夫したりしながら、集団対集団の攻防によって競争することに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。これらの特性は子ども達のより豊かなかかわり合いを生み出し、本校の研究テーマに適していると考えられる。

さらに、体育の授業の在り方を全ての学習に反映させ、「体力・学力・人間力」がバランスよく育つ「大野っ子」をめざしていく。

### 仮説

互いに認め合い楽しくかかわり合う場面を授業の中に意図的に増やしていけば、運動が好きになり、学習の質や意欲が高まっていくであろう。そして、励まし合い教え合うことで、めあて達成に向けた主体的な学習が展開され、運動の楽しさやできる喜びを味わえることができるであろう。さらに、学校生活の中で運動する機会を設けたり環境を整えたりすれば、自ら運動に親しみ、運動の日常化につながるであろう。